



さて、彼が次に登場してくるのは、14章です。お葬式でよく読まれる福音書です。十字架に架けられる前の晩、弟子たちに向かって、「わたしの父の家には住む所がたくさんある。」と言われたところです。それに続いてイエス様が、「わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」と言われると、このトマスは、「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるのでしょうか。」と尋ねます。

彼は、自分に理解できないことは、そのままにしておかない、はっきりした性格で、それ自体は探究心がある、という評価もできます。しかし、人間は死ぬことで終わりなんだ、そのあとどうなるかなんて、誰にもわかるはずがない、というふうに考えていたのでしょうか。

もっと別の言い方をすれば、イエス様を立派な宗教的指導者、つまり人間としては認めていたけれど、それ以上の存在とは考えられなかった、ということかもしれません。

そして、トマスが独自で3回目に登場してくるのが、今日の福音書です。そして、今日の所が、トマスという人物を表すのに、一番面白い所だろうと思います。

さて、今日の福音書の前半は、復活された日の夕方、イエス様が弟子たちの集まっている家に現れたお話ですが、ここにはトマスだけは居合わせていません。これには、理由が考えられるかもしれません。

ラザロが病気の時は、みんなに、「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか。」とまで言ったのに、結局は、みんなイエス様を裏切って、逃げて行ってしまいました。トマスは、自分があれだけ偉そうなことを言ったことを思い出すと、恥かしくて、合わせる顔がなかった、ということかもしれません。

ところが、他の弟子たちが、「わたしたちは主を見た。」と言うので驚きました。しかも、弟子たちは、とてもうれしそうにそれを語ったことでしょうか。なぜなら、今日の前半19節の終わりの方で、イエス様が、「あなたがたに平和があるように」と言われ、手とわき腹をお見せになると、「弟子たちは、主を見て喜んだ。」と書かれているからです。

おそらく、この弟子たちは、イエス様が復活されたことをマグダラのマリアから聞いて、イエス様が現れたら、恨み言でも言われるのではないかと震えていたのではないだろうか、と思うのですが、「あなたがたに平和があるように」と言われた。たぶん、ヘブライ語の「シャローム」という言葉でしょう。

これは日常、顔をあわせた時に「やあこんにちは」という意味もありますが、人間同士が、「お互い敵意を持っていない」、「仲良くしよう」と和解する時の言葉です。それをイエス様から言われて、弟子たちは、自分たちが裏切り者だ、という自責の念に駆られていたのが、そんな思いから、解放されたのでしょうか。イエス様を見たことより、「シャローム」という言葉に救われたのだらうと思います。

いつも悲観的で、勇気のあるトマスとしては、他の弟子たちの、このうれしさが、理解できず、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」と、自分には理解できないことを、はっきりと表明したわけです。

こう言われると、他の弟子たちは、「百聞は一見に如かず」と思ったのでしょうか。一週間後、前と同じ状態を再現するため、戸にすべて鍵をかけて、イエス様の出現を待っていたのでしょうか。

すると他の弟子たちが言ったのと同じ、1週間前の出来事が再現されました。

しかも、トマスの疑問に答えてくださるようなイエス様の言葉に、トマスは、それまで、自分が理解していた、「イエス様は、単なる人間だ。」と思っていたことが間違いで、この方は、死を乗り越えて、いつも自分たちと共にいてくださる方である、ということがわかったのです。

それが、「わたしの主、わたしの神よ」という、彼の言葉でした。これは信仰告白のように私には思えません。

それまで、「人間は死んだらおしまいだ。」というふうを考えていたけれど、そうではなくて、死んだ後、神様のもとへ帰ってゆける、その道を開いてくださった。それがイエス様の本質だとわかったのです。

これまで、トマスがイエス様の発言されたこと、

「わたしと父とは一つである。」

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとにゆくことはできない」

これらのことが、復活のイエス様に出会った時、トマスには、よくわかったのでしょうか。

人間は、神様から捨てられて、孤独に死ぬのではなく、生きていても、死んでからも、神様はいつも共にいてくださる、と確信できたのだらうと思います。

「見ないのに信じる人は、幸いである。」という、最後の言葉をかみしめましょう。

わたしたちは、トマスたちのように、イエス様を直接見ることはできません。

しかし、自分を裏切った者に対しても、「あなたがたに平和があるように。」と和解の言葉を言われたイエス様に信頼して、歩んでいく、幸いな者でありたいと思います。

今日は、弟子のトマスについて、聖書に出てくる箇所から考えてみました。